

電子書籍・電子カタログ制作のご案内

書籍コンテンツのマルチメディア展開といえば、まずは電子ブック。
紙の書籍と同時制作でコストダウン、過去データの電子化も承ります。
EPUB、電子カタログ等、用途に合った形式を提案します。

■EPUBの特長

電子書籍にはかつて多くのデータ形式が存在していましたが、現在はEPUBが標準仕様となりました。

EPUBのデータは、HTML(テキスト構造)とCSS(スタイル指定)で構成されています。そのため、Webコンテンツ制作の技術を活かして制作でき、自由度の高いレイアウトやデザイン表現が可能です。

EPUBにはリフロー型(可変レイアウト)とFIX型(固定レイアウト)の2種類の形式があります。リフロー型は使用するデバイスや文字設定に応じて文章や画像が自動的に再配置されます。スマートフォン、タブレット、PCなど、さまざまな端末で快適に閲覧できるのが大きな利点です。FIX型は印刷物と同じレイアウトで閲覧でき、主にマンガや雑誌、絵本などに採用されていますが、画面サイズが小さいと読みづらいというデメリットがあります。

■EPUB制作のQ&A

Q：EPUB制作のために必要な入稿データは？

A：印刷物の校了データとPDF(トンボ無し、単ページ)を入稿いただきます。印刷物は作成せず電子書籍だけを作成する場合は、Wordなどのテキストデータだけでもかまいません。ただし見出し類の指定が必要となります。

Q：縦組みのルビや音声の埋め込みなどは可能？

A：印刷物と同様にルビを付与することができます。また、動画や音声の埋め込み、音声の読み上げ機能を実装することも可能です。

Q：電子書籍を校正する際のポイントは？

A：文字校正は不要ですが、文字化けや字形の変化については確認が必要です。特にリフロー型では、タイトルや見出しの流れ、文字サイズを変えたときのレイアウト崩れなど、読者目線でのチェックが必要です。

■「EPUB」「電子カタログ」「PDF」の比較

	EPUB	電子カタログ	PDF
主な用途	電子書籍 (リフロー型・固定レイアウト型)	カタログ、パンフレット、雑誌、 営業資料	印刷用データ、閲覧用配布資料
表示形式	リフロー型(可変レイアウト)または 固定レイアウト型	固定レイアウト+ページめくり演出	固定レイアウト(ページそのまま)
デバイス対応	電子書籍リーダー、アプリ、PC、 スマホ	ブラウザ対応(PC・タブレット・スマホ) アプリ不要	PC、スマホ(ビューアに依存)
操作感	デバイスやビューアに依存	紙冊子に近い「めくり」演出あり	ページスクロール、ズーム中心
文字検索	対応(リフロー型は特に優秀)	対応(テキストデータがある場合)	対応(テキスト埋め込み必須)
目次・リンク	標準装備(ナビゲーション)	目次リンク・ページリンク設定可能	手動設定(リンク埋め込み)
動画・音声の埋め込み	EPUB 3で可能	対応 (動画・Webリンクを埋め込み可能)	基本不可(一部対応ビューアあり)
データ容量	テキスト主体なら軽量、画像多いと増加	PDFベースなのでやや重めだが最適化可	比較的重め(解像度に依存)
配信方法	電子書店、専用リーダーアプリ	Webサイト埋め込み、URL共有、 限定公開も可	メール添付、Webサイト公開、DL配布
アクセス解析	基本不可(ストア依存)	対応(閲覧履歴・滞在時間など取得可)	不可(単体ではログなし)
制作難易度	中(HTML/CSSの知識が必要)	低～中(PDFがあれば簡単変換)	低(DTPデータから直接作成)
主なメリット	多デバイス最適化、リーダー機能充実、 アクセシビリティ対応	紙の体験を再現しつつデジタル拡張で きる、営業・販促に強い	レイアウトの完全保持、印刷との親和 性が高い
主なデメリット	工数が多く、制作コストがやや高い	リフロー型の柔軟なテキスト対応は できない	検索性、拡張性が低い

■電子カタログの特長

電子書籍がマンガや小説などコンシューマ向けのメディアであるのに対して、電子カタログは製品案内やパンフレットなど、ビジネス向けのメディアと言えます。その特長を紹介します。

1. ページめくり演出

電子カタログに搭載されているページめくりアニメーションは、紙の冊子に慣れた読者にも親しみやすい操作感を提供できます。この点が一般的なEPUBリーダーやPDFビューアとの大きな違いです。見ているページが移動したことが、直感的にわかります。

2. 既存のPDFデータを活用

電子カタログは、印刷物のPDFをそのまま使用して作成できます。印刷用データ資産をそのままマルチメディア活用できることは大きなメリットといえます。短期間かつ低コストで制作できるため、既存の紙カタログのデジタル化に最適です。

3. 付加機能による拡張性

電子カタログは単なるPDF閲覧ツールではなく、以下のようなデジタルならではの機能を備えています。

- ・目次ナビゲーション
- ・検索機能
- ・動画、音声、Webリンクの埋め込み
- ・付箋、メモ機能
- ・ページ単位の共有、SNS連携

カタログやマニュアルでは、検索機能により必要な情報に簡単にアクセスできます。また、紙媒体では伝えきれなかった情報を付与することで、メディアの訴求力をより高めることができます。ECサイトへの誘導も可能です。

4. マルチデバイス対応

電子カタログのデータはHTML5で作られており、パソコンやタブレット、スマートフォンといったさまざまなデバイスで最適化表示が可能です。ブラウザだけで閲覧できる設計のため、専用ビューア等のアプリのインストールは不要です。

5. アクセス解析機能

電子カタログの多くは、アクセスログを取得できる仕組みを備えています。どのページが多く閲覧されたか、どのリンクがクリックされたか、そのページにどのくらいの時間滞在したか、どのページから離脱したかなど、ユーザーの動きを可視化できます。コンテンツの効果測定を行うことで、ユーザビリティ向上のための改善点が見出せます。

6. 柔軟な公開範囲設定

一部のページのみ公開する、パスワードで閲覧制限をかける、公開期間を限定するなど、運用条件に応じた柔軟な公開範囲設定が可能です。社内限定資料、会員向けカタログといった、紙媒体では難しかった限定型メディアとして公開することができます。



電子カタログのサンプル画面。付箋機能やメモ機能など多彩な機能が搭載されている。

電子書籍、電子カタログのいずれもソースとなるのはDTPデータです。DTPデータさえ残っていれば電子版は容易に作成できます。残っているのがPDFやテキストデータのみでも、形式によっては電子化が可能です。

新たに制作する案件でしたら、DTP作業とセットでご依頼いただくことで紙版と電子版を同時に、スムーズかつローコストで作成できます。

それぞれの商品に適した形式や作業フローをご提案しますので、担当営業までぜひご相談ください。